

第 30 回 大分 NST 研究会を終えて

大分 NST 研究会の代表世話人であり、今回の当番を務めさせていただいた唐原です。おかげ様をもちまして、会が盛会に終わりましたことを感謝申し上げます。今回、基調講演の形で会の歴史をお話させていただく機会を得ましたことも、望外の喜びでした。この会は、丁度、新しい研修医制度が開始され、医療安全や訴訟、医療崩壊などが問題になり始めた平成 16 年に別府市内の有志と共に発足準備を開始しました。全国からは、数年出遅れた状況でした。しかし、県内全部の NST を志す皆様の熱い情熱とご協力により瞬く間に県内一円に浸透し、JSPEN などに参加した際に、中央の先生方から「大分県の NST は、スタートはやや遅かったけど、結束力が高く、盛り上がりは凄いな」と褒められるようになっておりました。平成 21 年に研究会主体で行った「緩和ケアと NST の現状」に関するアンケート調査の回収率が 100%であったことが、その象徴と思われました。その後、NST 加算、歯科医加算、施設条件の緩和など追い風が吹き、超高齢化社会への重要なツールとして、NST の重要性は増すばかりの状況で、衰えることなく活動は継続されております。もう一度、これまでの 15 年間の努力にたいして、皆様に深く感謝しつつ、これからも「One Team」で頑張っていきましょう。

国立病院機構 西別府病院 外科

大分県 NST 研究会 代表世話人 唐原 和秀

